

上峰町 史跡めぐり



てんりゅうくん

■上峰町の指定文化財一覧■

国指定文化財

- 天然記念物 / 八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物と埋没林 (地図番号8)
- 天然記念物 / カササギ生息地
- 重要文化財 (考古資料) / 二塚山遺跡出土品 (地図番号7)

佐賀県指定文化財

- 佐賀県史跡 / 二塚山五本谷遺跡 (地図番号7)
- 佐賀県史跡 / 船石遺跡 (地図番号13)
- 佐賀県史跡 / 堤土塁跡 (地図番号9)
- 佐賀県重要文化財 (考古資料) / 上峰町切通出土土甕棺とその遺物一括 (地図番号16)
- 佐賀県重要文化財 (考古資料) / 船石遺跡1.2.3号墳出土遺物一括 (地図番号13)
- 佐賀県重要文化財 (考古資料) / 一本谷遺跡出土長宜子孫連弧文鏡一面 (地図番号18)
- 佐賀県重要無形民俗文化財 / 米多浮立 (地図番号28)

上峰町指定文化財

- 上峰町重要文化財 (彫刻) / 慈眼寺 (廃寺) 木造聖観音立像 (地図番号6)
- 上峰町重要文化財 (彫刻) / 阿弥陀如来立像 (地図番号31)
- 上峰町重要文化財 (工芸) / 銅鐘 (地図番号31)
- 上峰町重要文化財 (建造物) / 佐渡宮肥前鳥居 (地図番号24)
- 上峰町重要文化財 (考古資料) / 塔の塚廃寺出土の瓦 (地図番号27)

アクセス

上峰町まで

- JR長崎本線
吉野ヶ里公園駅または中原駅より車で約10分
- 西鉄バス
佐賀駅バスセンターより40番系統で約45分(下津毛まで)
西鉄久留米駅、JR久留米駅より40番系統で約35分(下津毛まで)
鳥栖駅より43番系統で約25分(切通まで)
- 長崎自動車道
東脊振インターより車で約15分

平成12年2月発行 令和3年3月改訂

上峰町教育委員会

〒849-0123 佐賀県三養基郡上峰町大字坊所319-4
TEL0952-52-3833 FAX0952-52-3888

郷土史のお問い合わせは上峰町ふるさと学館へ

〒849-0123 佐賀県三養基郡上峰町大字坊所606
TEL0952-52-4934 FAX0952-52-4937



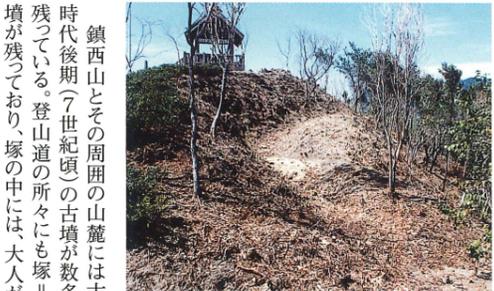
為朝伝説の山 鎮西山

■鎮西山と為朝伝説 (地図番号1)
鎮西山には、平安時代末期の武将、源為朝(1139-1177)の伝説が残っている。傍若無人の暴れ者であった為朝は13歳の時、九州に流され、自ら「鎮西山」と名乗り、15歳で九州を平定した。「肥陽軍記」には、「東肥前の屋形原に館を構え、北の鎮西山頂に城を築いた」と記され、弓の名手であった為朝が、宴の座興で鎮西城から遠くの人を籠を射抜いたが、その老人が矢を投げ返し彼の慢心を諷めたと伝えられている。



五万ヶ池

五万ヶ池にも為朝の武勇を伝える伝説が残っている。ある時、為朝を討とうと鎮西城を攻めた敵五万騎余りが、為朝により、この辺りで討たれたところからその名が付けられたという。



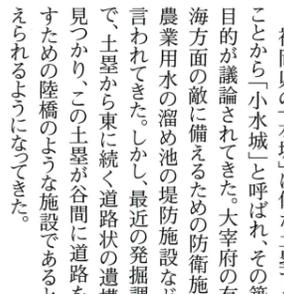
山頂の山城の土塁



北口登山道の古墳

鎮西山とその周囲の山麓には古墳時代後期(7世紀頃)の古墳が数多く残っている。登山道の所々にも塚Ⅱ古墳が残っており、塚の中には、大人が立

てるような立派な石室(遺体をおさめた部屋)をもつものもある。塚原という地名も、このような古墳がたぐさん残っていたことによるものと考えられている。



堤土塁の版築

福岡県の「水城」に似た土塁であることから「水城」と呼ばれ、その築造目的が議論されてきた。大宰府の有明海方面の敵に備えるための防衛施設、農業用水の溜め池の堤防施設などと言われてきた。しかし、最近の発掘調査で、土塁から東に続く道路状の遺構が見つかり、この土塁が谷間に道路を渡すための陸橋のような施設であると考

えられるようになってきた。



堤土塁全景

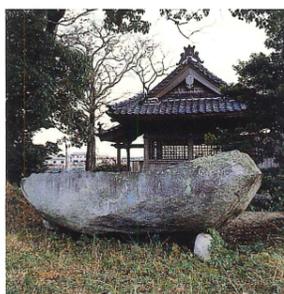
土塁は、土を層ごとにつぎ固め、これを幾層にも積み上げていく「版築」と呼ばれる工法で築かれている。

八藤丘陵(二塚山丘陵) (地図番号9)
まる谷に全長約300m、基底部幅約40mの人工の土塁が築かれている。奈良時代に造られ、堤という集落の名前の起りともなったこの土塁は、現在は東西に分かれた形で残っている。



火砕流でなぎ倒された巨木

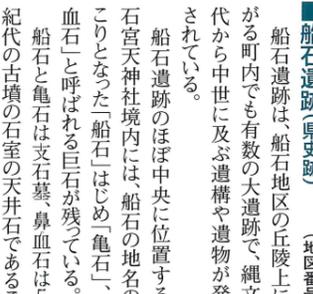
八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物と埋没林(国天然記念物) (地図番号8)
圃場整備の工事中に地下約3mの地中から、長さ22m、幹の直径15mの巨大な倒木(マツ科トウヒ属モミ木の種)が発見された。巨木の周囲にもたくさん焼けた木々が埋まっていた。これらの木々は、約9万年前の阿蘇4火砕流と呼ばれる北部九州一帯を覆いつくすような大火砕流によりなぎ倒され埋まった当時の森林の跡であった。出土した木々から当時の森が復元され、気温も年平均で5〜6℃低く、当時の九州の気候が現在の東北地方あたりの気候だったことがわかった。資料の一部はふるさと学館に展示している。



船石遺跡

船石遺跡は、船石地区の丘陵上に広がる町内でも有数の大遺跡で、縄文時代から中世に及ぶ遺構や遺物が発見されている。

船石遺跡のほぼ中央に位置する舟石宮天神社境内には、船石の地名の起りとなった「船石」(はじめ「亀石」、「鼻血石」と呼ばれる巨石が残っている。船石と亀石は支石墓、鼻血石は5世紀代の古墳の石室の天井石であることが発掘調査でわかった。このほかにも境内には、甕棺墓約100基、5世紀代の古墳2基をはじめ、住居跡、それに墳丘墓ではないかと見られる基壇状の遺構などが検出され、県の史跡として指定されている。



二塚山遺跡出土遺物

また、この調査で甕棺墓から出土した鉄剣、銅鏡、玉類などの副葬品は、国の重要文化財に指定され、県立博物館に保管されている。



緑地として残された二塚山五本谷遺跡

二塚山五本谷遺跡は、工業団地の建設に先立って発掘調査が行われ、豊富な副葬品を持つ弥生時代の甕棺墓群や古墳時代の方形周溝墓などが見つかっている。現在は、遺跡の一部が地輪の窯跡などとともに工業団地内に緑地として保存され、県の史跡に指定されている。



佐渡神社肥前鳥居

佐渡神社は、神埼町姉川に本拠を置き、坊所郷を領した姉川氏が、正平4年(1369)に筑前箱崎宮の御分霊を祀ったこと(開始)。

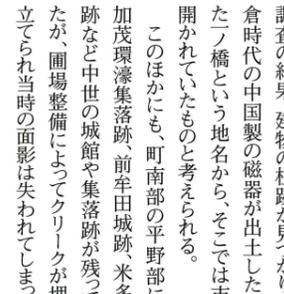
江戸時代初めに鍋島清虎によって社殿が再建され、慶長10年(1605)、石造の鳥居が建立された。この鳥居は、「肥前鳥居」と呼ばれる形式の鳥居で、現存する町内最古のものとして町の重要文化財に指定されている。



都紀女加王墓

調査を終えた主要な古墳は、都紀女加王墓の北に隣接する土地に、実際の古墳の七分の一の墳丘が造られ改葬され、今日、町の古墳公園となっている。

昭和17年、陸軍飛行場の建設により、一帯の古墳は破壊されることになった。戦時下という厳しい状況のなか調査が行われ、古墳群の前方後円墳の中で一番古い形式の「上のびょう塚」が、「初代米多国造都紀女加王墓」として宮内省の管理のもと保存されることになった。

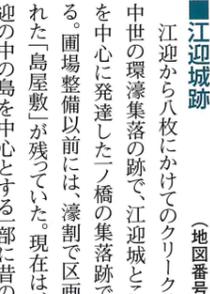


江迎城跡の環濠

江迎城は文献には見えないが、発掘調査の結果、建物の柱跡が見つかり、鎌倉時代の中国製の磁器が出土した。また、ノ橋という地名から、ここでは市が開かれていたものと考えられる。

このほかにも、町南部の平野部には加茂環濠集落跡、前牟田城跡、米多城跡など中世の城館や集落跡が残っていたが、圃場整備によってクレークが埋め立てられ当時の面影は失われてしまった。

江迎城跡 (地図番号33)
江迎から八枚にかけてのクレークは、中世の環濠集落の跡で、江迎城とこれを中心に関連したノ橋の集落跡である。圃場整備以前には、濠割で区画された「島屋敷」が残っていた。現在は、江迎の中の島を中心とする一部に昔の姿をとどめている。



米多浮立 天衝舞

米多浮立は、江戸時代中頃から、米多地区に伝わる民俗芸能である。浮立は、佐賀県のほぼ全域にわたって分布しているが、そのなかでも米多浮立は天衝舞浮立と呼ばれるもので、頭上に「天衝」と呼ばれる大きなかぶりものをかぶって舞う姿は荘厳で勇壮である。



戦争中に時中断したが、昭和24年に復活され、今日に受け継がれている。2年に1度、10月25日に近い土曜日、日曜日に老松神社の秋の神幸祭に、瑞応寺跡(説には妙法寺跡)で打ち出し、老松神社、若宮神社に奉納される。

■米多浮立(県重要無形民俗文化財) (地図番号28、29、32)
米多浮立は、江戸時代中頃から、米多地区に伝わる民俗芸能である。浮立は、佐賀県のほぼ全域にわたって分布しているが、そのなかでも米多浮立は天衝舞浮立と呼ばれるもので、頭上に「天衝」と呼ばれる大きなかぶりものをかぶって舞う姿は荘厳で勇壮である。

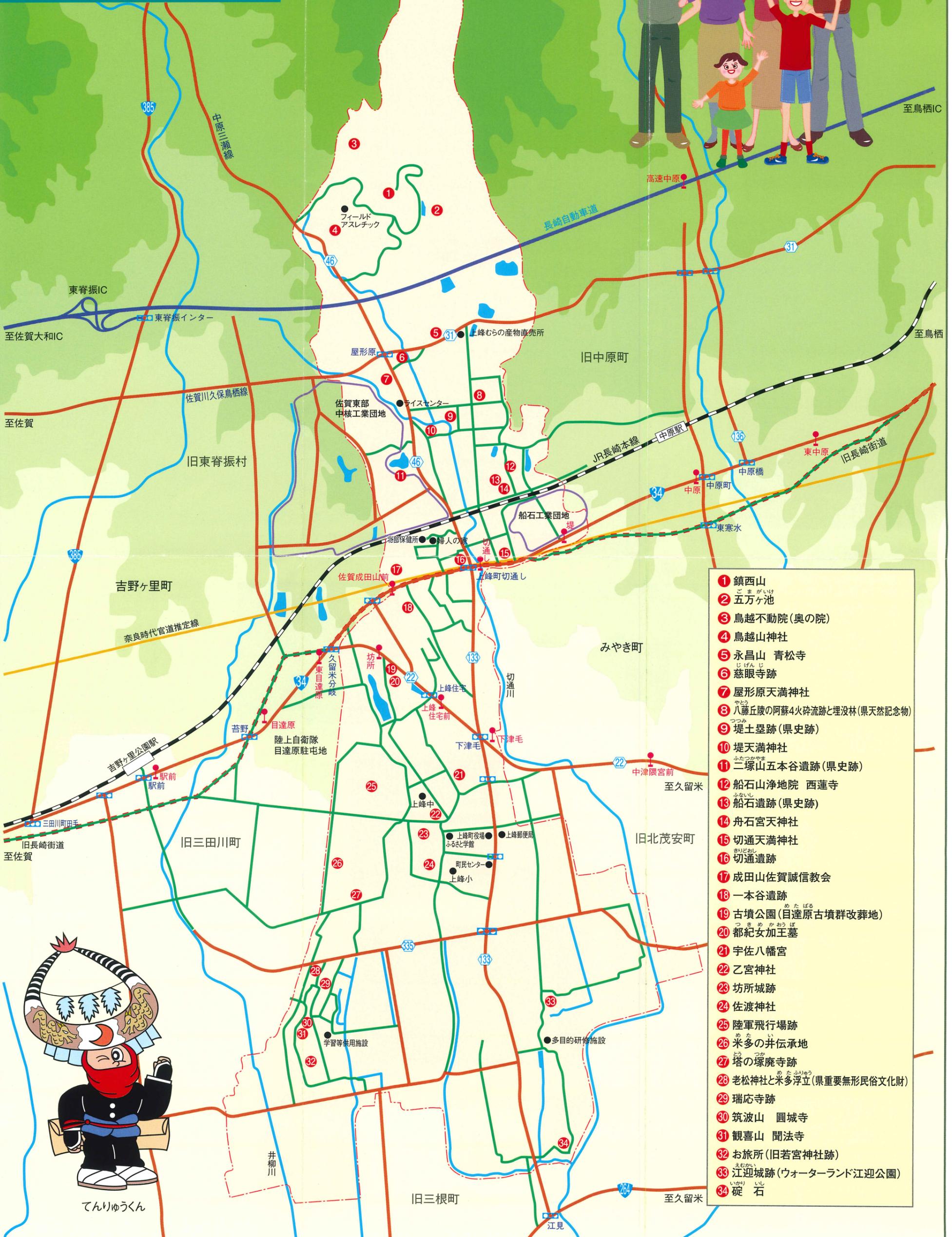
■目達原古墳群 (地図番号19、20、25)
戦前までは、目達原(米多原)帯には、前方後円墳7基と大小の円墳が点在し、目達原古墳群と呼ばれる5世紀後半代の古墳群として知られていた。当時、米多地区を中心としたこの地域は「米多国造」が治めていた。その初代の米多国造に任命されたのが応神天皇の曾孫にあたる都紀女加という人物で、以後、この地を代々治め、目達原に古墳を残したのが都紀女加とその一族であった。

昭和17年、陸軍飛行場の建設により、一帯の古墳は破壊されることになった。戦時下という厳しい状況のなか調査が行われ、古墳群の前方後円墳の中で一番古い形式の「上のびょう塚」が、「初代米多国造都紀女加王墓」として宮内省の管理のもと保存されることになった。

二塚山五本谷遺跡は、工業団地の建設に先立って発掘調査が行われ、豊富な副葬品を持つ弥生時代の甕棺墓群や古墳時代の方形周溝墓などが見つかっている。現在は、遺跡の一部が地輪の窯跡などとともに工業団地内に緑地として保存され、県の史跡に指定されている。

八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物と埋没林(国天然記念物) (地図番号8)
圃場整備の工事中に地下約3mの地中から、長さ22m、幹の直径15mの巨大な倒木(マツ科トウヒ属モミ木の種)が発見された。巨木の周囲にもたくさん焼けた木々が埋まっていた。これらの木々は、約9万年前の阿蘇4火砕流と呼ばれる北部九州一帯を覆いつくすような大火砕流によりなぎ倒され埋まった当時の森林の跡であった。出土した木々から当時の森が復元され、気温も年平均で5〜6℃低く、当時の九州の気候が現在の東北地方あたりの気候だったことがわかった。資料の一部はふるさと学館に展示している。

上峰町 史跡マップ



- 1 鎮西山
- 2 五万ヶ池
- 3 鳥越不動院(奥の院)
- 4 鳥越山神社
- 5 永昌山 青松寺
- 6 慈眼寺跡
- 7 屋形原天満神社
- 8 八藤丘陵の阿蘇4火砕流跡と埋没林(県天然記念物)
- 9 堤土塁跡(県史跡)
- 10 堤天満神社
- 11 二塚山五本谷遺跡(県史跡)
- 12 船石山浄地院 西蓮寺
- 13 船石遺跡(県史跡)
- 14 舟石宮天神社
- 15 切通天満神社
- 16 切通遺跡
- 17 成田山佐賀誠信教会
- 18 一本谷遺跡
- 19 古墳公園(目達原古墳群改葬地)
- 20 都紀女加王墓
- 21 宇佐八幡宮
- 22 乙宮神社
- 23 坊所城跡
- 24 佐渡神社
- 25 陸軍飛行場跡
- 26 米多の井伝承地
- 27 塔の塚廃寺跡
- 28 老松神社と米多浮立(県重要無形民俗文化財)
- 29 瑞応寺跡
- 30 筑波山 圓城寺
- 31 観喜山 聞法寺
- 32 お旅所(旧若宮神社跡)
- 33 江迎城跡(ウォーターランド江迎公園)
- 34 礎石



てりゅうくん